

近代日本の電力業と地域社会

—ミドル・マネジメントの視点から—



三科仁伸 講師

我が国のエネルギー産業は、地域社会とどのように向き合ってきたのであろうか。本報告では、我が国の電力企業の在り方を、地域社会の視座から捉えなおすことを課題とする。

具体的には、電力料金の熾烈な値下げ競争である“電力戦”が発生した1920年代を中心に、東邦電力（現・中部電力）の豊橋や浜松の営業所長を務めた松岡孝吉の活動について、彼が作成した業務日誌や克明な日記の内容から、電力企業と地域社会の関係を検討する。京都府出身の松岡が東海地方へと転出する過程を踏まえて、豊橋での電気料金値下げ問題への対応など事例に、地域社会と密接にかかわったミドル・マネジメントの活動を明らかにする。

現代に生かすラフカディオ・ハーン

—再話作品の魅力と可能性—

ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の著作でもっともよく知られているのは『怪談』*KWAIDAN*（1904）でしょう。特に「耳なし芳一のはなし」は下関の方々にとっては身近な作品だろうと思います。そこで今回は、ラフカディオ・ハーンという人物についてご紹介し、「耳なし芳一のはなし」*The story of Mimi-Nashi-Hōichi*と「生神」*A Living God*の二作品に触れながら、再話作品の魅力についてお話ししたいと思います。

さらに、近年注目されている「文化資源」という考え方—作品をただ楽しむだけではなく、地域の財産として、守り、育み、活用する取り組み—から見たときに、ハーンと再話作品がどのような可能性をもっているのかについても皆さんと一緒に考えてみたいと思います。



三成清香 特任教員

◆日時：12月17日（月）18：00～20：00

◆場所：下関市立大学 本館2階 I-201教室

◆参加費：無料

◆学生の皆さんも学外の方も、ぜひ奮ってご参加ください。
◆駐車場に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

◆共創サロンとは◆

参加者が相互に交流して情報を出し合い意見を交換する場です。テーマは学内の特色ある研究、教育、地域活動の中から、学生や学外の方を含む多くの方に興味を持っていただけるような内容を取り上げます。大学と地域との懸け橋となるよう気軽に参加できるサロンを目指していきますので、皆さん是非ともお越しください。

■お問合せ 下関市立大学附属地域共創センター

〒751-8510 下関市大学町二丁目1番1号 TEL 083-254-8613 FAX 083-253-1622 E-mail chiikikyoso@shimonoseki-cu.ac.jp